



学術研究フォーラムについて

第9回学術研究フォーラムシンポジウム
「オープンサイエンスの展開」
開催に当たって

平成30年10日17日

有川 節夫

(放送大学学園理事長)

学術研究フォーラムとは？（1）

1. 「我が国の学術研究の明日を語る会ーノーベル賞連続受賞を祝してー」
（2001年11月27日）のメッセージの趣旨を踏まえて、
学術研究の隆盛を願う者が集い、交流し、発信することによって我が国の
学術研究振興に寄与することを目的として、
研究者の任意団体として、学術研究フォーラムを平成14年（2002年）4月に
設立。
2. 目的
 - 学術研究者の社会的自覚を促す。
 - 学術研究の重要性を社会に知らせる。
 - 学術研究推進のための環境整備を促進する。
3. 活動
 - 初期の頃は、対談、セミナーを頻繁に開催
 - シンポジウム開催
 - 出版「大学はなぜ必要か」 NTT出版、2008年3月

（郷通子先生の資料に加筆）

学術研究フォーラムとは？（2）

4. メンバー（発足時の幹事）

末松安晴先生（当時、国立情報学研究所長）

阿部博之先生（当時、東北大学長）

石井紫郎先生（東京大学名誉教授）

池端雪甫先生（当時、東京外国語大学長）

小平桂一先生（当時、総合研究大学院大学長）

小林陽太郎様（当時、富士ゼロックス会長）

白川英樹先生（2000年ノーベル化学賞受賞）

鈴木昭憲先生（当時、秋田県立大学長）

野依良治先生（2001年ノーベル化学賞受賞者）

郷 通子（当時、名古屋大学理学研究科教授）

5. 現在（平成30年10月）の幹事

阿部博之先生（科学技術振興機構特別顧問）

郷 通子先生（名古屋大学理事）

有川節夫（放送大学学園理事長）

日本学術振興会

日本学術振興会このフォーラムの趣旨をご理解いただき支援。

（郷通子先生の資料更新）

これまでの学術シンポジウム

発足会 我が国の学術研究の明日を語る会—ノーベル賞連続

受賞を祝して—（国立科学博物館）2001年11月27日

第1回 学術と「産学連携」（東北大学）2007年10月

第2回 学術と「産学連携」～産学連携とひとづくり～（名古屋大学）2008年6月

第3回 学術と「産学連携」—人文学の振興と産学連携—（同志社大学）2009年6月

第4回 生活者の視点に立った学術研究（お茶の水女子大学）2010年7月

第5回 科学の限界と技術の限界？—想定外を考える—（東北大学）2011年10月

第6回 学術研究における女性—学術のダイバーシティを求めて—（東京大学）
2014年11月

第7回 「科学研究のよりよき発展と倫理の確立を目指して」
（日本学術振興会）東京 2015年11月

第8回 「科学研究のよりよき発展と倫理の確立を目指して」
（日本学術振興会）大阪 2016年11月

第9回 「オープンサイエンスの展開」（国立情報学研究所）2018年10月

（郷通子先生の資料に追加）

オープンサイエンスの展開

学術研究フォーラムがこれまでに扱ってきたテーマを考え、全ての学術研究に共通した、この時期(時代)の重要な課題として提案

- オープンアクセス
- オープンデータ
- シチズンサイエンス

- ✓ G8科学大臣会合」での共同声明:「科学研究データのオープン化について」(2013年6月)
- ✓ 大学図書館、内閣府、日本学術会議、文部科学省等での検討
- ✓ 科学技術基本計画(第3期、第4期、第5期)に反映